



天文資料

2019年 7月号

令和元年度 第4号 (7月号)

令和元年 6月26日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<夏の星座が続々登場！>

6月中 旬から下旬は、本来、梅雨の真ん中のはずですが、今年はどうも様子が違います。このような空梅雨気味の時は、梅雨末期が台風接近と重なったりして大きな被害をもたらすことがあるので天気予報の内容には十分気をつけてください。

不安をあおるような前置きになりましたが、夜空は夏の星座が続々と登場してきます。まず、南の空に目を向けると赤い一等星アンタレスを中心に大きなS字型を描くさそり座が目に入ってきます。その東側（左側）には、さそりをねらういて座があります。さらに両星座の上には、大きな将棋の駒のような星並びのへびつかい座があります。そして天頂にはHの形に星が並んだヘルクレス座があります。その東側にはこと座ベガ（おりひめ星）、わし座アルタイル（ひこ星）、はくちょう座デネブで形づくる「夏の大三角」が昇ってきています。



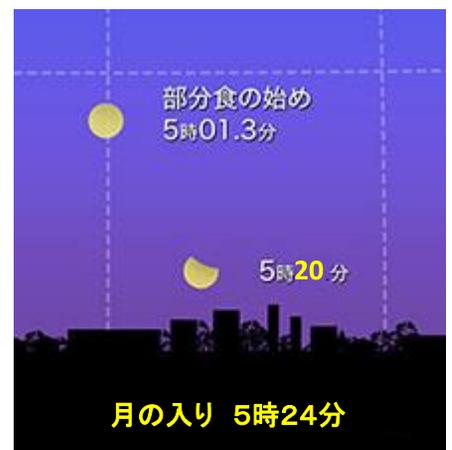
国立天文台HPより

また、夏は天の川がよく見える季節です。天の川は恒星の大集団（二千億～四千億個）である銀河を横から見た姿で、さそり座・いて座の方向がその中心となるため、遠い星々のかすかな光が川の流れるように連なって見えています。今年はその中に木星と土星が加わっています。土星も先月の木星に続き、7月10日にいて座で「衝」を迎え、観望しやすくなりますので楽しみですね。

<2つの天文現象を紹介します。>

7月17日（水） 部分月食

日の出直前から食が始まる月食です。西南西の空低く、午前5時頃から欠け始めますが、5時20分過ぎには月が沈んでしまう厳しい月食です。



7月30日（火） みずがめ座δ（デルタ）南・北流星群

午後9時頃、東の空に昇ってくるみずがめ座に輻射点がある流星群です。条件がよければ1時間に5～6個の出現があるでしょう。

翌31日（水）の午前4時頃までが見られる時間帯です。

輻射点が低いので、横に飛んだり上に飛んだりする流星が多いのが特徴です。目にすることができればきっと印象に残るでしょう。

